

## 経皮的冠動脈インターベンションの併用でも長期生存率は変わらず

安定虚血性心疾患患者では、経皮的冠動脈インターベンションは狭心症を軽減するが、生存の改善を示した臨床試験はない。1999年6月~2004年1月に安定虚血性心疾患患者 2,287 例を対象に行った試験では、対象者を至適薬物療法のみを行う群（薬物療法群）または至適薬物療法+経皮的冠動脈インターベンションを施行する群（PCI 群）にランダムに割り付けた。追跡期間中央値 4.6 年の時点の生存率は、両群間に有意差が認められなかった。本研究では、さらに最長 15 年追跡した患者の生存率を調査した。

拡張調査の生存情報は、1,211 例（もとの患者集団の 53%）について得られた。生存の追跡ができた患者の追跡期間中央値は 11.9 年であった。死亡率は PCI 群が 25%、薬物療法群は 24%であった（補正ハザード比は 1.03 ;  $p=0.76$ ）。

したがって、最長 15 年の拡張追跡調査において、安定虚血性心疾患患者の初期治療戦略として薬物療法に経皮的冠動脈インターベンションを併用しても、薬物療法単独と比べ、長期的な生存率に差が認められないことが示された。

出典 : The New England Journal of Medicine. 2015; 373(20): 1937-1946